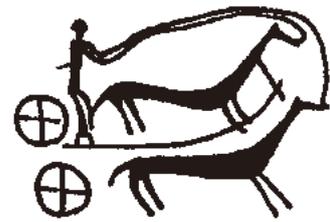


ニュースレター

Hokkaido University
Institute for the Advancement of Higher Education

北海道大学 高等教育推進機構
Newsletter No. 93



- 北海道地区 FD・SD 推進協議会総会開催 (4 ページ)
第 2 回教育改善マネジメント・ワークショップ (12 ページ)
第 15 回ソウル大・北大ジョイントシンポジウム (15 ページ)
生涯学習計画セミナーを実施 (17 ページ)
新しい北海道大学入試広報に向けて (18 ページ)

(詳しい目次は裏表紙にあります)

巻頭言 FOREWORD

「新渡戸カレッジ」の設立について

国際本部長・理事・副学長 本堂 武夫

平成 25 年 4 月から、学士課程の特別教育プログラムとして、「新渡戸カレッジ」を開校します。このプログラムは、文部科学省のグローバル人材育成推進事業の支援を受けて全国 42 の国公私立大学が実施する事業の一つですが、北海道大学の「新渡戸カレッジ」は、本学にとってもまた他の総合大学にとっても、これまでにない新たな方式の教育プログラムです。「新渡戸カレッジ」とは何か？ その設立の趣旨と特徴・意義について、このプログラムの立案を担ったタスクフォースを代表して、要点を説明致します。

設立の趣旨

本構想は、国際活動に関わる新渡戸稲造の精神を

日本の 21 世紀的課題と捉えて、その具現化を目指して学士課程に新たな教育システムを導入するものです。これまで、北海道大学は、国際性や教養教育・全人教育を重視してきましたが、本構想は、

それをさらに進めて、国際コミュニケーション力の強化を図ると共に、品位ある自律的な個人を確立し、日本人としてのアイデンティティを持ちつつも偏狭な排外主義に陥らない国際性とリーダーシップを醸成し得る全人教育を行うものです。



ここ数年、グローバル人材の育成に関する様々な提言や報告が各界から発表されてきましたが、その背景には、経済活動等の急速なグローバル化の進行に日本社会が追いついていないという危機感があると思います。人や物が容易に国境を越えて移動し、情報が瞬く間に世界を駆け巡る現代においては、政治・経済や外交といった元々国際化が必要な分野だけではなく、文系理系を問わず幅広い分野にわたって、国際性を身につけた人材の育成が急務になっています。ここで求められる国際性とは、単に外国語に通じているということではなく、高い精神性・倫理感と異文化理解力、コミュニケーション能力、リーダーシップ力を身につけた人材であり、何よりもフロンティア精神・チャレンジ精神に溢れた人材です。幅広い専門分野にわたってそのような人材を輩出することこそが、わが国を代表する基幹総合大学としての使命であると考えます。このような認識に立って、「新渡戸カレッジ」を設立致します。

新渡戸カレッジの概要

北海道大学の12学部すべてを対象として、二千数百名の新入生から約200名を選抜して、学士課程の早い段階から、国際性およびリーダーシップの涵養に取り組む特別教育プログラムを実施します。カレッジ参加学生は、それぞれの学部・学科のカリキュラムと並行して「新渡戸カリキュラム」を履修します(図1)。

また、同窓生とカレッジを結ぶ新たな仕組みとして、「新渡戸ネット」を組織します。産業界や国際機関等で豊富な経験を有する同窓生に、「新渡戸カ

レッジフェロー」として、カレッジ参加学生のキャリアデザインに助言をしていただくと共に、カレッジの運営等について様々な観点からご意見を頂きたいと思っております。

このような特別プログラムによって、カレッジ修了生が、それぞれの専門分野を生かして、国際展開する企業や国際機関等で活躍する人材に育つことを期待しております。

新渡戸カリキュラム

新渡戸カレッジの特徴は、全12学部から選抜された約200名の学生が共に学ぶカリキュラムが用意されている点にあり、学部・学科の垣根を越えた学習環境を提供するという意味で、「カレッジ」と称しています。英国のケンブリッジ大学等の「カレッジ」は、学生寮の役割と学部・学科の垣根を越えてエリートを育てる教育組織としての役割の両面を持っていますが、「新渡戸カレッジ」は後者に近い役割を担う新たな教育システムとして構想されたものです。

新渡戸カリキュラムでは、それぞれの専門教育を重視すると同時に、日本文化・歴史の理解と並行して、異文化理解を促進し、多文化交流を実践する科目、および北海道のフィールドを生かした授業によるリーダーシップ醸成、リスクマネジメントの体験、インターンシップによる実社会体験等を必修としています。また、コミュニケーションツールとしての英語力を強化するために、小人数クラスによる「留学支援英語」および様々なテーマに関する英語によるディスカッションやディベートの機会を提供



図1 新渡戸カレッジカリキュラムの履修イメージ

すると共に、原則として1セメスター以上の海外留学を義務づけています。

留学支援英語

学期毎にプレイスメントテストを実施して、レベルに応じたクラス分けを行います。1クラス20人以下の小人数クラスとして、英語を母語とする教員による会話とライティングを中心とした実践的な英語の授業を行います。最大300名を収容できるクラス編成を考えており、カレッジ生以外でも希望する学生はプレイスメントテストを受けて参加できるようにします。また、夏期と春期に集中講座を設けて、他の授業の関係で学期中の留学支援英語を受講できない学生に受講の機会を与えます。

修了生への修了証授与・称号付与

所定の条件を満たした学生には、新渡戸カレッジで培われた資質・能力・技能が分かるような記載を伴う修了証を授与します。また、専門科目と英語レベルの成績によって、「新渡戸マスター」、「新渡戸シニア」、「新渡戸ジュニア」の3段階の称号を付与いたします。この称号は、学部卒業時に限らず、卒業前であっても、大学院進学後であっても、要件を達成した時点で付与することにしております。

バイリンガルキャンパス構想

外国人留学生の数は、年々増加して平成24年11月時点で、約1500名に達していますが、その大部分は大学院生であり、学部生に占める外国人学生の割合は短期留学生を含めても2%程度でしかありません。学部段階から外国人留学生と机を並べて勉強するというには程遠い状態です。このような状況を克服するために、文系4学部共通の新たな学

部コースとして、「現代日本学プログラム」を平成26年度に発足させる予定です(図2)。このプログラムに入学する外国人学生は、英語による国際AO入試で選抜された後、半年の入学前準備教育と1年次の日本語教育で日本語運用能力を高めて、2年次以降の専門科目等は日本語で受講するコースです。すなわち、このコースは、日本語が十分ではない外国人学生を受け入れて、日本語を徹底的に鍛えて、日本社会あるいは国際展開する日系企業等で活躍する人材に育てるのがねらいです。

ただし、このコースが成り立つためには、1年次の授業をすべて英語で提供することが必要です。新渡戸カレッジでも多数の英語による授業を用意する必要があり、英語を母語とする教員あるいはそれに近い外国人教員・日本人教員によるCEPU(Central English Program Unit)を組織して、学部の専門科目および全学共通科目として、英語で提供される科目を50科目以上新規に開設することにしていきます。これによって、全学教育科目を英語のみで履修可能となりますので、学部専門科目の英語化によって学部4年間の英語コースも可能になります。

このような学部教育の国際化と並行して、教職員の英語力強化にも目標を設定して、徐々に日英バイリンガルキャンパスを実現したいと考えております。もちろん、英語だけが外国語ではありませんし、多言語化も進めてまいります。英語対応能力の強化は喫緊の課題だと思っております。

以上述べてきましたように、新渡戸カレッジと現代日本学プログラムを両輪として、北海道大学は、教育の国際化を加速致しますが、この推進には多くの教職員のご協力が不可欠です。みなさまのご理解とご協力をお願いして、巻頭言と致します。

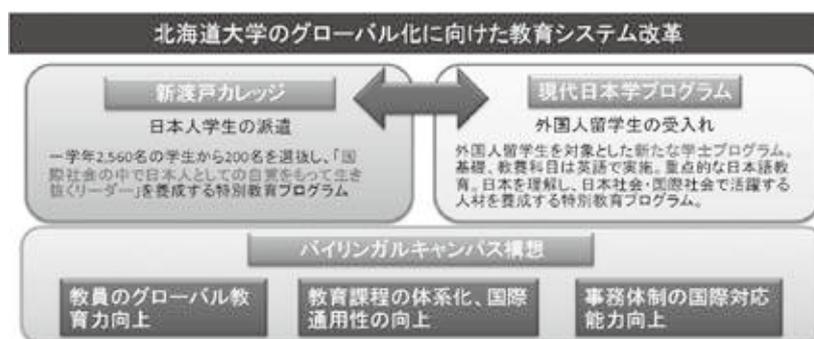


図2 北海道大学のグローバル化概念図